

参 考

- 1 標準化死亡比 (Standardized Mortality Ratio: SMR) の定義は次のとおりであり、年齢構造の影響を取り除いた死亡率の指標の一つである。

$$\text{標準化死亡比 (SMR)} = \frac{\text{実死亡数}}{\text{期待死亡数}} \times 100$$

実死亡数 = 観察集団の全年齢死亡数

期待死亡数 = {観察集団の年齢(階級) X歳の人口 × 基礎集団のその年齢(階級) X歳の死亡率} の各年齢(階級) についての総和

すなわち、期待死亡数とは、年齢(階級)別死亡率が基礎集団(通常は全国)と同じであると仮定したときに期待(予測)される死亡数であり、実際の死亡数をこれで除したものがSMRである。

したがって、SMRは低い方が望ましく、SMRが100を超えていれば、年齢構造の違いを考慮してもなお、死亡率が基礎集団よりも高いことを示すものである。

- 2 ここに掲げたSMRは、平成22年～平成26年の5年間の死亡データを基に計算した、全国を基礎集団とするSMRである。

注：具体的に用いたデータ等は、次のとおりである。

死亡数：平成22年から平成26年までの5年間の死亡数

年齢階級：5歳階級{(0~4歳), (5~9歳), …, (75~79歳), (80歳以上)の17階級}を用いた。